



電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)
 ニュースレター (2021年度 No.3)
<http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/>



～ 目次 ～

- ◆HC 賞授賞のご報告
- ◆HCG シンポジウム 2021 開催のご報告
- ◆2022 年総合大会開催のご案内
- ◆FIT2022 (第 21 回情報科学フォーラム) 投稿のご案内
- ◆HC 特集号投稿のご案内
- ◆研究会活動紹介 (WIT 研究会)



HC 賞授賞のご報告

庶務幹事
 橋本敦史 (オムロンサイニックエックス)

令和 3 年度ヒューマンコミュニケーション(HC)賞授賞式が、令和 3 年 12 月 16 日(金)に HCG シンポジウム 2021 のオンライン会場において開催されました。バーチャル空間にて、賞状画像共有による表彰、ビデオ共有による受賞理由の紹介、受賞者コメント、記念撮影がおこなわれ、受賞者に賞状が贈呈されました。

HC 賞は、過去 1 年間に開催されたヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)の第一種研究会(HCS, HIP, MVE, WIT)における技術研究報告を対象とし、各研究専門委員会に設置された選考委員会の厳正なる審査の下に選出されます。受賞件数は対象期間の発表 25 件につき 1 件、以降 50 件ごとに 1 件を基準としており、HCG が授与する賞の中で最も権威の高い賞となります。

本年は次の 5 件の発表が HC 賞を受賞されました。

- 「マルチモーダル特徴量を用いたターン管理の意欲と実際のターン交替の同時予測」(HCS2021-22)
- 「目と口で異なる感情を示す表情に対する顔筋電反応 ～ 運動模倣仮説と評価理論 への示唆 ～」(HIP2021-23)
- 「動画像中の雨粒の数と大きさが雨の強さに与える影響」(HIP2021-29)
- 「防火意識向上のための環境認識に基づく AR 火災シミュレータ」(MVE2020-22)
- 「車椅子バスケットボール用車椅子における旋回時フレーム挙動の 分析と最適化に向けた予備的検討」(WIT2021-1)

いずれもコミュニケーションにおける課題に取り組んだ魅力的な研究であり、研究視点、手法、結果の新規性、独自性および有効性、各分野への発展性や応用可能性などの観点から高く評価されました。

受賞一覧は下記 URL よりご覧いただけます。各発表の技術研究報告もぜひあわせてご覧ください。
<https://www.hcg-ieice.org/archives/hc-awards>



HCG シンポジウム 2021 開催のご報告

企画幹事
瀬古俊一 (NTT)

今年度で 19 回目を迎えた HCG シンポジウム 2021(副題:新様式でかわりゆく・かわらないヒューマンコミュニケーション)が 2021 年 12 月 15 日(水)～2020 年 12 月 17 日(金)の日程で開催されました。前年同様のオンラインでの開催となり、今年度の発表件数は 70 件(口頭発表とインタラクティブ発表:55 件, インタラクティブ発表のみ:15 件)と前年と同程度, 参加者数は 190 名と前年よりも 1 割増で開催することができました。ご発表, ご参加いただいた皆様, ありがとうございます。

今年度も三日間のインタラクティブセッションそれぞれに対して, 参加者の投票により決定されるインタラクティブ発表賞(最優秀・優秀・学生優秀)が贈られました。受賞者一覧がウェブサイトに掲載されておりますので, ご覧ください。

<https://www.hcg-ieice.org/hcg-symposium/2021/>

招待講演には, 「ポストコロナ時代のテレワークに向けた作業状況推定と遠隔共有の試み」というタイトルで東京農工大学大学院工学研究院先端情報科学部門の藤田欣也先生に講演をいただき, コロナ禍前後でのリモートワークに関する考えや研究の変化についてご紹介いただきました。2017 年度より始まったチュートリアル講演では, 心理学×工学・情報科学(2017), 心理統計学×工学・情報科学(2018), 生理学×工学・情報科学(2019), デザイン x 工学・情報科学(2020)に続き, 文化人類学 x 工学・情報科学ということで, 北陸先端科学技術大学院大学の伊藤泰信先生に「非人類学者のためのエスノグラフィのススメ」というタイトルで講演をいただき, エスノグラフィを中心として質的(定性)評価の重要性についてご紹介いただきました。

また, あるテーマに関係する発表者を集めた特集テーマセッションでは, ソーシャル・インタラクション, 食メディア, ロケーション・インフォマティクス, 視覚障害者支援と人間拡張のそれぞれをテーマにしたセッションが組まれ, 優秀な発表に対して, 特集テーマセッション賞が贈られました。

次回の HCG シンポジウム 2022 は, 2022 年 12 月 14 日(水)～2022 年 12 月 16 日(金)の日程で開催される予定です。コロナ禍の収束がまだ見通せない状況ですが, 香川県高松市の高松シンボルタワーでの開催, HCG シンポジウムとしては初めてのハイブリッド開催での検討を進めております。みなさまのご参加をお待ちしています。

2022 年総合大会開催のご案内

企画幹事
三浦貴大（産総研）

開催まで残すところ 1 ヶ月足らずとなった、2022 年 電子情報通信学会 総合大会についてお知らせ致します。概要は次の通りです：

- ・会期：2022 年 3 月 15 日(火)～18 日(金)
- ・会場：オンライン
- ・スローガン：持続可能な未来を拓く電子情報通信

最新情報につきましては下記をご覧ください。

Web: <https://www.ieice-taikai.jp/2022general/jpn/>

電子情報通信学会では、春に総合大会、秋にソサイエティ大会を開催しております。総合大会はヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)に加え、学会を構成する 5 つのソサイエティ（基礎・境界、NOLTA、通信、エレクトロニクス、情報・システム）が一堂に会して開かれる大規模なものです。今年は 3 年ぶりの現地開催（於 新潟大学（新潟市））を目指しておりましたが、度重なる COVID-19 の流行により、昨年に引き続いてのオンライン開催と決定されました。

今回の総合大会においては、3 月 15 日(火)18:00 よりウェルカムパーティが 4 つのソサイエティにより合同で開催されることになりました。電子情報通信学会に所属する各研究専門委員会の紹介に加え、企業紹介が予定されております。また、3 月 17 日(木)にプレナリーセッションが開催されます。本セッションでは、電子情報通信学会会長の石田 亨 氏による講演「連携の時代の電子情報通信学会」の後、学術奨励賞授賞式・教育功労賞授賞式・フェロー称号贈呈式といった一連の表彰式が執り行われます。また、セッション後半では基調講演 2 本が予定されています。最初に「新潟大学「日本酒学」の挑戦」との題目で鈴木 一史 氏（新潟大学農学部 教授／新潟大学日本酒学センター センター長）よりご講演頂いた後、「偏波レーダによる地球観測の研究」と題して山口 芳雄 氏（新潟大学名誉教授・自然科学系フェロー）からご講話いただきます。

総合大会では例年、一般セッションの他にも多数の企画講演セッションが行われています。今大会においても 40 件の企画講演セッションが提案されております。これらのセッションには、各ソサイエティに関連したものに加え、大会委員会による「産業界でのデジタルトランスフォーメーション(DX)推進の取り組み」、「若手研究者弾丸プレゼン」が企画されています。また、プレナリーセッションを含め、27 件が一般無料公開されており、非常に参加しやすくなっております。企画公演セッションの概要は次のページで公開されております（Web: <https://www.ieice-taikai.jp/2022general/jpn/schedule-s.html>）。さらに、公募セッションにおいては例年 1,500 件を超える発表が行われており（今大会は 1,729 件）、まさに電子情報通信分野を一望できる国内最大級の学会大会です。

ぜひこの機会に、皆様お誘い合わせの上、ご参加をご検討下さい。多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

=====

FIT2022 (第 21 回情報科学フォーラム) 投稿のご案内

企画幹事
三浦貴大 (産総研)

電子情報通信学会(ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG), 情報・システムソサイエティ(ISS))と情報処理学会(IPSJ)が共同して主催する, FIT2022(第 21 回情報科学技術フォーラム)についてご案内いたします.

- ・会期: 2022 年 9 月 13 日(火)~15 日(木)
- ・会場: 慶應義塾大学 矢上キャンパス (神奈川県横浜市港北区日吉 3-14-1)
- ・講演申込時期: 2022 年 3~4 月より募集予定.

最新情報につきましては下記をご覧ください.

Web: <https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2022/>

2002 年から毎年開かれている本フォーラムは, IPSJ 全国大会と ISS ソサイエティ大会の流れを汲むものです. 従来の学会大会の形式にとらわれない試みを新たに導入し続けており, タイムリーな情報発信, 活気ある議論・討論, 多彩な企画, 他分野研究者との交流などを実現してきました.

特に, 2019 年大会より導入された「トップコンファレンスセッション」は, 各分野におけるトップレベルの国際会議・学術雑誌にここ数年以内に採録された論文について, 著者ご自身からご紹介頂く特別なセッションです. 直近 3 回の大会では, それぞれ約 40 件の発表がなされています. 具体的なトピックとして, 機械学習, ネットワークとセキュリティ, コンピュータビジョン, コンピュータグラフィクス, ソフトウェア工学・アルゴリズム・アーキテクチャ, インタラクション, 教育学習支援とマルチメディアなどに関するセッションが行われてきました. 2022 年大会でも同様のセッションが開催されることが予想されます.

この他にも, ビジネス分野との接点が意識されたセッションがも企画されています. 「IT 情報系キャリア研究セッション」では, 企業と学生とが対話する機会を提供しております. 昨年は 7 社からのご講演に加え, 就職や働き方事情についてのフリートークの場が設けられました. また, 「インダストリアルセッション」においては, 企業における技術開発の取組や製品についての紹介がなされる他, 「AI Tech Talk」では, AI 技術に関連した企業におけるビジネスへの取り組みが紹介されます.

そして何よりも, 皆様の研究成果発表の場として, 広く論文発表を募集しております. 例年, 情報科学に関する 15 分野(※)についての発表・議論が行われてきました. この機会にぜひ, ご投稿・ご参加を検討下さいませ.

※発表を募集している分野

- A: モデル・アルゴリズム・プログラミング
- B: ソフトウェア
- C: ハードウェア・アーキテクチャ
- D: データベース
- E: 自然言語・音声・音楽
- F: 人工知能・ゲーム
- G: 生体情報科学
- H: 画像認識・メディア理解
- I: グラフィクス・画像

J: ヒューマンコミュニケーション&インタラクション
K: 教育工学・福祉工学・マルチメディア応用
L: ネットワーク・セキュリティ
M: ユビキタス・モバイルコンピューティング
N: 教育・人文科学
O: 情報システム

=====

HC 特集号投稿のご案内

HC 特集号編集委員長
小森政嗣（大阪電気通信大）

毎年ヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）では電子情報通信学会誌にて特集号を発行しています。次年度は、和文論文誌 A にて特集「ヒューマンコミュニケーション特集」を募集することとなりました。独自の論文誌を有していないヒューマンコミュニケーショングループの会員にとって、本特集は日頃の研究成果を発表する絶好の機会ですので、是非投稿を御検討ください。

■ スケジュール

- ・ 投稿期限 2022 年 4 月 22 日（金）（予定）
- ・ 論文発行 2023 年 3 月（予定）査読の最終決定は 2022 年 10 月第 3 週を予定しております

■ 対象分野

ヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）に関連したすべての分野を対象とします。

■ 投稿方法

- ・ 電子情報通信学会論文投稿システム（下記 URL）を用いて「A 基礎・境界：[特集 HA] ヒューマンコミュニケーション」へ電子投稿してください。
https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_j.aspx

特集号編集委員会

委員長：小森政嗣（大阪電気通信大学）

副委員長：寺田和憲（岐阜大学）

幹事：新井田統（KDDI 総合研究所），高嶋和毅（東北大学），安藤英由樹（大阪芸術大学），松村耕平（立命館大学），道満恵介（中京大学）

委員：永井岳大（東京工業大学），酒向慎司（名古屋工業大学），藤田和之（東北大学），塩野目剛亮（帝京大学），坂井田瑠衣（公立ほこだて未来大学），川崎 真弘（筑波大学），小川 浩平（名古屋大学），大本 義正（静岡大学），平山高嗣（人間環境大学），川本 一彦（千葉大学）

■ 問い合わせ先

小森政嗣（大阪電気通信大学） komori@osakac.ac.jp

研究会活動紹介 (WIT 研究会)

WIT 委員長
酒向慎司 (名工大)

HCG では、2005 年にグループ内の研専メンバーを中心に情報保障ワーキンググループを組織し、学会や研究会での情報保障を充実させるための「論文作成・発表アクセシビリティガイドライン」を作成しました。障害のある人々の積極的な学会への参加、さらには社会参加を促進することを目的としており、例えば視覚障害の方に配慮した論文執筆や発表資料作成における注意点、さまざまな障害をもった方が研究会に参加されるときに必要な配慮や情報保障を実施する際の段取りなどがまとめられたものです。研究会に参加する方にも、研究会運営に携わる方にも有用なもので、HCG グループの関係者をはじめ、他の学会や研究会からも広く活用されていると認識しています。

「誰もが参加できる研究会」というあるべき姿を打ち出したこの取り組みは、障害者差別解消法が施行された 2016 年に 10 年も先んじて行われ、人と人、人を取りまく環境とのコミュニケーションに関連する様々な研究分野を扱う HCG にふさわしい活動の一つだと思います。

ガイドラインの初版が公開された後に WG は終了しましたが、その後の管理は WIT 研究会が引き継ぎ、2 度の改訂 (2008 年に ver.3 を公開) を経て現在に至っています。この間、基本的なアクセシビリティや配慮の考え方は変わっていないものの、現在の状況に合わせた改訂が必要ではないか、という声が研究会内部から出てきました。例えば、研究会のオンライン開催という新しい実施形態への対応です。オンライン開催時の発表や聴講で、これまでにない状況でのアクセシビリティの配慮や情報保障が必要になっています。また、情報技術の発展によって障害者自身が利用するツールも変わってきています。移動の問題を抱えていた方にとっては研究会参加の障壁が少なくなったことも事実であり、オンラインのメリットを活かした研究会開催のため、それに合わせた改訂が必要になってきました。

そこで WIT 研究会では ver.4 への改訂に向けたワーキンググループを設置し、布川清彦氏 (前々 WIT 委員長) をリーダーとして改訂に向けた取り組みに着手しました。今回の改訂では、視覚障害や聴覚障害などの障害支援の研究に従事されている専門家の監修のもとで、ガイドライン全体を見直して現在の状況に合った内容に改定するほか、オンライン開催における障害当事者の発表および聴講の双方に対応した発表資料作成・発表の方法・聴講参加者への配慮、その他これまでに触れていなかった障害に関する配慮事項などを加え、さらに内容を充実させる計画です。2021 年度内を目途に主要な部分の改訂を終え、来年度には新たに ver.4 を公開する予定です。今後とも本ガイドラインの利活用をよろしくお願いいたします。

論文作成・発表アクセシビリティガイドライン (ver.3)
<https://www.ieice.org/~wit/guidelines/>

=====

ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事について、
詳しくは HCG ホームページ <http://www.hcg-ieice.org/> をご覧ください。

□■□
電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ
Copyright (c) 2022 IEICE, All Rights Reserved.
□■□

☆e-mailによる情報配信を必要としない方は、その旨 henkou@ieice.org まで
会員番号，氏名をご連絡ください。処理に 1ヶ月程度かかりますので，入れ
違いに，再度情報配信された場合は，ご容赦ください。
(ご連絡いただいた場合は本会，登録ソサイエティ，グループ，支部，からの
全ての情報配信が止まりますので，情報配信を再度希望される時も，その旨，
henkou@ieice.org までご連絡下さい。)

ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice
(社) 電子情報通信学会 サービス事業部
TEL:03-3433-6691 FAX:03-3433-6659